

総務省からの
お知らせ

第三世代移動通信システム（IMT-2000）の
導入に関する方針に係る意見募集結果の公表
及び今後の方針案等に対する意見の募集
＜IMT-2000の2GHz帯周波数の今後の取扱い＞

総務省では、平成12年に公表した「第三世代移動通信システムの導入に関する方針」に基づき電波の公平な利用の確保の観点から免許人に割り当てることを見合わせてきた周波数の今後の取扱いについて、平成15年12月26日から平成16年2月6日まで意見募集を行ないました。

この意見募集結果を踏まえ、割当てを見合わせている2GHz帯周波数の今後の取扱方針案を作成しましたので、皆様からの意見を下記の要領で広く募集することとします。

1 意見募集結果及び今後の取扱方針案

総務省では、「第三世代移動通信システムの導入に関する方針」（平成12年3月公表 郵政省、以下「導入方針」という。）において割当てを見合わせてきた2GHz帯周波数に係る今後の取扱いについて検討を行うため、平成15年12月26日から平成16年2月6日まで意見募集を行い、寄せられた意見等を踏まえ、今後の取扱方針案を作成しました。意見提出者について、提出された主な意見とそれに対する総務省の考え方についての詳細は、（http://www.soumu.go.jp/s-news/2004/040319_3.html）を参照ください

2 意見の募集

次の事項について、意見を募集します。

- (1) 「割当てを見合わせている周波数を既存事業者に割り当てるべきとする意見」及び「割当てを見合わせている周波数を新規事業者に割り当てるべきとする意見」に対する再意見
- (2) 「割当てを見合わせている2GHz帯周波数の今後の取扱方針案」に対する意見

3 意見募集の要領

(1) 意見提出先

〒100-8926

東京都千代田区霞が関2-1-2 中央合同庁舎第2号館

総務省総合通信基盤局電波部移動通信課

「第三世代移動通信システム（IMT-2000）の導入に関する方針に係る意見の公表及び今後の方針案等に対する意見の募集」まで

E-mail：imt2000@soumu.go.jp

FAX：03-5253-5946

(2)意見提出方法

様式は任意としますが、提出者の氏名、住所、電話番号及び電子メールアドレスを記載の上、書面により、上記の意見提出先に日本語にて郵送、FAX又は電子メールで提出して下さい。

お寄せいただいたご意見を公表する際には、ご意見を提出していただいた方の氏名（法人については名称）その他属性に関する情報を公表することがありますので、あらかじめご了承ください。

4 募集期限

平成16年4月19日（月）17時

5 今後の予定

本意見募集の結果を踏まえ、第三世代移動通信システムにおいて割当てを合わせている2GHz帯周波数の今後の取扱いについて検討を行い、方針として決定することとします。

6 意見の提出先及び問い合わせ先

連絡先 総合通信基盤局電波部移動通信課
担当 松井課長補佐、田中第二技術係長
電話 03-5253-5896
FAX 03-5253-5946
電子メールアドレス imt2000@soumu.go.jp

関係報道資料：

第三世代移動通信システム（IMT-2000）の導入に関する方針（平成12年3月公表）に係る意見の募集＜IMT-2000の2GHz帯周波数の今後の取扱い＞
（平成15年12月26日）（http://www.soumu.go.jp/s-news/2003/031226_8.html）

「通信産業基本調査」報告書（平成14年11月実施）の結果

総務省は、平成15年末に、平成14年11月に実施した「通信産業基本調査」（総務大臣承認統計）の結果を報告書にとりまとめました。本調査は「通信産業実体調査（経営体財務調査）」の調査内容を引き継ぐとともに、新たな設問項目を加えて充実を図り、本年度から実施したものです。

今回の報告書から通信産業の事業別売上高とインターネット付随サービス業の売上高を掲載します。

詳細は http://www.johotsusintokei.soumu.go.jp/public/data2/HB200200_001.pdf を参照下さい。

連絡先：情報通信政策局総合政策課

電話： (直通) 03-5253-5744 (FAX) 03-5253-5721

*通信産業基本調査：

通信産業（電気通信事業及び放送事業）における売上高等の実態とその動向を把握するため、昨年までの通信産業実態調査（経営体財務調査）を見直し、本年より実施。

- 通信産業の平成14年度売上高見込額は、対前年度比1.1%増の22兆8,975億円。
- 電気通信事業の平成14年度売上高見込額の対前年度比は0.4%増。
- 放送事業の平成14年度売上高見込額の対前年度比は0.4%減。
- インターネット附随サービス業は対前年度比14.1%増。

通信産業の事業別売上高

[単位：億円、%]

区分	12年度		13年度		14年度	
	実績額	前年度比	実績額	前年度比	見込額	前年度比
通信産業全体	211,790	7.5	226,453	6.9	228,975	1.1
電気通信事業	175,938	7.9	190,554	8.3	191,401	0.4
第一種 電気通信事業	162,187	5.4	176,086	8.6	175,898	▲ 0.1
第二種 電気通信事業	13,751	49.7	14,468	5.2	15,503	7.2
放送事業	35,851	5.5	35,899	0.1	35,740	▲ 0.4
民間放送事業	27,131	5.7	27,029	▲ 0.4	26,303	▲ 2.7
ケーブルテレビ 事業	2,195	10.3	2,294	4.5	2,750	19.9
NHK	6,526	3.0	6,576	0.8	6,687	1.7
全産業	9,435,477	1.5	9,313,673	▲ 1.3	—	—

注：全産業は「国民経済計算年報」（内閣府）による産出額（暦年）。

インターネット附随サービス業の売上高

[単位：億円、%]

	12年度	13年度	14年度

区分						
	実績額	前年度比	実績額	前年度比	見込額	前年度比
インターネット附随サービス業	—	—	1,608	—	1,834	14.1

*注：インターネット附随サービス業とは、サーバ・ハウジング業、ASP（アプリケーション・サービス・プロバイダ）、電子認証業、情報ネットワーク・セキュリティ・サービス業及びポータルサイト運営業を行う業

欧州電気通信／放送の動き

仏：無線 LAN 普及のための動き強まる

【Les Echos, 2004/03/12】

仏では、無線 LAN は情報処理関係者にはよく知られたものとなったが、一般に普及しているとは言いがたい状況にある。しかしながら、人口に対するホットスポット数に関しては世界第三位となり、遅れを急速に取り戻しつつある。このような矛盾した状況を受け、仏当局と、関連業界（ISP、通信機器・部品メーカー、ホットスポット事業者等）は、様々なテストと啓蒙活動を展開している。ラジオ・フランスが主催した『Wi-Fi の日』の機会に、オレンジは、Wi-Fi の普及に力を入れると再び強調した。

現在、仏には 2500 カ所のホットスポットがあるが、その利用はいまだに僅かに留まっている。また、仏研究・先端技術省のシャール氏も、無線 LAN 技術の重要性は大きいとの立場を示し、Wi-Fi の仏での普及は、病院や学校での利用が鍵になると指摘している。同省が立てた計画では、2007 年までに学校施設の 100% カバーが目標とされている。パリ交通公団（RATP）でのテストに加え、SNCF（仏国鉄）の列車、特に TGV をカバーする計画も進んでいる。

ネット・ラジオ、仏で普及始まる

【LIBERATION, 2004/03/03】

仏では、ネット・ラジオの普及が始まっている。調査会社メディアメトリによると、仏のネット・ラジオ聴取者数は、現時点では 300 万人に達し、ネット・ラジオの普及は、ブロードバンドの普及に伴い更に加速すると見られる。既に世界のネット・ラジオ局数は 1 万 1000 局に達しており、毎日数局ずつ増加しているが、仏でも、大手ラジオが既に放送を開始した外、インターネット放送専門のウェブラジオ局も続々と放送を開始しており、その数は 20 局以上に達している。特に音楽専門局が多く、楽曲の著作権を巡る争いが生じている。なお、現時点では、ネット・ラジオは CSA（視聴覚最高評議会）の監督下に置かれていない。

3月初旬に、T社関連放送局主催の「こども音楽コンクール」において中学管楽合奏部門で一位（文部科学大臣奨励賞）になった友人教師の表彰式に出席してきました、その印象です。

日本も裕福になったと思いました。以前の合唱と吹奏楽だけの学校音楽教育時代から、今ではなんと小中学校にオーケストラがあるのです、音楽関係の付属校ならいざ知らず、公立学校にです。記念演奏を聴きましたが、それが素晴らしい演奏で、上達の難しい弦楽器を難なく弾くのは、驚きでした。

その際に「アジアの掛け橋～シルクロードの旅～」と題して、モンゴルと中国音楽を両国の第一人者から紹介されました。モンゴル民謡歌手から、草原に響き渡るような朗々とした自国民謡と岩手県民謡の「南部牛追い唄」が披露され、両民謡を聴くと日本の追分（息の長いのが特徴）等の源流がモンゴルにあることを理解しました。

また、中国楽器の二胡（弦が二本の擦弦楽器）・三弦（三味線の源流）・中国琵琶（バチで弾かず5本の指に爪をつけて弾く）・揚琴（チェンバロの音色だが二本の竹の棒で打つ）等の演奏があり、このところ音楽も中国は元気であることを感じました。女子十二楽坊に代表されるように海外で演奏されることが多いようです。これまた以前に日本の指揮者・器楽奏者が海外で活躍し始めた時代を思い出します。

人類学では、日本人も含めた両国人はモンゴロイドで括られています。ふっくら顔のモンゴル奏者とほっそり顔の中国奏者が最後に合同演奏をしてくださいましたが、勝手な想像を膨らませました。当然見たことはないのですが前者を縄文人に後者を弥生人に思いました。編集子はモンゴル系で目は腫れぼったいながら縄文系（本来は彫りが深い）を自覚してきました。

色んな事を考えさせてくれた楽しい2時間でした。

（編集子：ECHO）